京城新聞

●慶尚道 農商状況(九)
倭館(其二)

▲商況● 當地方は昨年米豆の作柄十分ならざりし爲め稍々輸入品等の購買力を減殺せしやの感なきに非ざりしも當地輸入品の主なるものは食鹽及明太魚石油等にして何れも必要缺くべからざるの日用品なれば相應賣行ありしが如し就中食鹽は當地を以て此附近に於ける唯一の集散地と爲すものなれば其取引少からず而して本年は米作の佳良なるため一層活潑なる取引を見るなるべし

▲通貨● 總て韓貨の流通を見るも大部分は葉錢のみを使用す

▲人氣● 一般に平穩にして日韓人間取引等圓滿なり

▲附記● 當地には穀物組合及び食鹽組合あり食鹽組合は在留邦人中四名(合資組合資本金一萬圓)にて其主旨の大要は鳴湖の製鹽を買收して鐵路當地へ輸送し以て從來前記製鹽が洛東江の水運に據り當地へ輸送し來れるものと對抗せんとするものゝ如し

金泉

尚州へ九里、善山へ六里

韓人戸口 市場附近二百七十六戸一千二百四十四人日本人百六十九戸三百六十五人(男二一〇女一五五)職業の大別は雜貨商四十、米穀商二十、酒屋四、宿屋四、料理屋四、運搬業三、鍛冶業三、金貸業四戸及鐵道員駐在巡査等なり又日本人會、小學校、憲兵分遣所、守備隊、郵便取扱所、本願寺出張所等あり

▲作柄● 尚州善山及當地方一体米作は頗る良好にて韓人等は十數年來の豐作なりと稱せり平均先つ昨年の二割增收ならんか又當地大豆は去三十八九年頃より坂神及紀州地方の各需要地に於て其品質の良好を以て元山、釜山等の産出品と並び稱せらるに至りしか昨四十年産は其品質稍不良にて各需要地に於る聲價を失墜せしも本年は其品質頗る佳良にて去三十九年産に比し殆んど遜色なかるべく其收穫亦昨年より多少の增收なるべきかと云ふ

(新刊紹介)

●實業の日本 口繪には「米國大西洋艦隊の歡迎」及び「米國艦隊各艦長」外數葉の優麗なる寫眞版を揭ぐ內容趣味に富み且つ靑年者流の立身の刺戟劑とも見らるべき記事豐かなる中に「慶應義塾先選卒業生は如何なる動機徑路に依りて實業界に出でたるか」の一項は確かに讀者の參考となるべし(十一卷二十三號一部十一錢東京々橋區南紺屋町實業の日本社)

●東京經濟雜誌 本號の讀物は「來年度豫算の概要」「印度漸く貨幣制度の危機を脫す」「臺灣統治の成績」其の他數項なり(一五八卷一四六號一部十二錢東京々橋區彌左衞門町東京經濟雜誌社)

●婦人世界 口繪數葉何れも鮮麗にして女子の眼を喜ばしむ村井弦齋氏の「男女結婚論」山脇房子氏の「意地惡き姑に仕へて多年貞節を守りし嫁の實例」等は當今の女子に取つて有益なる文字なり(三卷十三號一部十五錢東京々橋區南鍋町實業の日本社)

●憲政本黨々報 論說には野間氏の「條約改正の準備」あり論旨整然所說一讀確に再讀の價値ありと云ふべし(三卷二號一部十錢東京芝區烏森憲政本黨本部)

講談 名奉行(三)
桂文枝口演

久「オ、情けない留守ちや」番「夫は云へません。私も一軒家の店を預ります番頭で丁稚小僧ちやございませぬ、お逢ひなさい、逢ふて何んぞ貴公に御不都合でもあるのでございますか」久「イヤ別に」番「そんなら此座へ通ませうか」久「困ッたなマア通せ」番「へエ」といふので番頭が案內いたしますと與兵衞さん奥の座敷へ來て見ますと、今度普請をした新座敷、寄疊の匂いプンとして久七は[illegible]の上に[illegible]いて、下女に按摩をさして居ります」與「へエ今日は旦那様御無沙汰いたして居ります」久「へエ御無沙汰は結構です。お越しになつたは宜い事であるまい」與「お家様は追々と御繁昌で」久「へエ／＼御蔭様で可なりに暮して居ります。常々貴公のお噂をして居りますが貴公は人が善過ぎる、ソコへ火事に遇つたといふやうな運の惡い人間は、モウ駄目ですなア」與「ハイ左様でございます十年前の三月に金子一十兩御用立申した事がありますなア」久「へエ／＼借りましたが其れは返して貴公の目の前で帳面へ入りをしたでせう」與「ハイ其時は書附を戴かず。又何時私がお借り申す事があるかも知れんと申して」久「左様々々貴所はそんな事を仰しやつたが、私は那の時から貸す氣はなかつた」與「へエー其れから續いて三十兩、五十兩、七十兩、中揃に百兩」久「皆な返へした」與「其の百兩の金がございませぬ家內中詮議をして見ましたが、一向知れません其日居間へお這入りになつたのは、貴所様お一人ぢやと皆が申します」久「スルと其金を私が取つたといふのか、イヤサ盗んだといふのか」與「イエ／＼なんのそんな事を申しませう。其はどうでも宜敷うございます其の時の利息と思召して何程か惠んで戴きたいと參りました何卒かお願ひ…」久「フン無心かイヤ乞食か、へゝン無心なれば門へ立つていふものちや、お歸りなさい、貴所には鐚一文惠む事は出來ん、われに甲斐性がなうて却つて難儀して居なさる人サア／＼お歸り」與「モシ其では貴所餘り薄情でござりませんか」久「何が薄情ぢや」與「義理人情を知らぬ者は人間の皮を着た人非人、畜生よりも劣つたお方」久「言して置けば畜生とは何ぢや、今一言いふて見い、コレッ」と持つた煙管で眉間を一ツ、コッ」ヨ「アッ」といふと赤いものがタラ／＼」久「若者叩き出せ」若者「つゝサア／＼出たく／＼何をしに來た出い／＼」と若者が寄り、老人を押倒し店の上口から突落し、破れた着物を又破られ、腕をしたゝかに打ちながら起上り振向く途端胸をドヤと突かれました、ヒヨロ／＼と道路へ出で小石に躓づき、バッタリ倒れて起上つたが物見高いは所の常三人五人と人が寄り集る中に知つた人もあり、流石に面目ないと裏手へ廻りまして、見ると立派な土藏二戸前船板屏忍返しに見越の松與兵衞はヒッと睨で ヨ「ア、口惜しい事ぢやから武兵衞行くなと止めたのか此姿で歸つたら定めし彼も歎くであらう此の姿に引替へて立派な普請、十年前ならば是に劣らぬ和泉屋與兵衞、世に捨てられた今の身の上辛うの形、此松で縊れて死んだ方が、武兵衞も助かり私も助かる左様ちや繩切でもないかと彼方此方さがしますと普請手[illegible]がないと見へて塀際に鉋屑から木端[illegible]積んでありますハテ火の用心の惡い從[illegible]よなりプッと」ヨ「待てよ同じ死ぬなら私の家同様に丸燒に此家へも火を附けて丸燒にしてやらう」と恐ろしい氣になりました[illegible]堀ですから近所の[illegible]の屑棧俵など拾つて塀に立掛け煙草入をかいさぐり、火打道具を出してカチ／＼やりかけました、[illegible]な火付でございますが一心[illegible]か、と火が附きました是が眞夜中なれば逃げても助かりませんが未だ宵の口殊に表通りは[illegible]屋町、火先を見て大勢がワッ火事ぢや[illegible]方から寄集つて叩き消しました番屋の[illegible]が提灯持つて 若者「此所な所から火の出さうな筈がない附火ちや其邊を探して見い」與兵衞は狼狽て逃げ遁れ、[illegible]を見附け出し 若者「怪しい奴が居るゝ、ソレ捕縛れ」バタ／＼と大勢の若者、提灯で姿を見て 若「此奴今日家へ無心に來よつた奴、打殺せ川へ投り込めワイ／＼いふて居る所へ、會所から町役の者が參りまして「捕まへたか面見い」さ顏を見ますと十年前は慈善家で佛とまでいはれた與兵衞 役「ヲッ。フン、よし／＼會所へ引け」と會所へ引上げまして 役「和泉屋の旦那ぢやございませんか」ヨ「皆さんに面目次第もない[illegible]は斯様でございます」と一伍一什話をしますと町役も 役「其れはお氣の毒な事、番屋は人間ぢやござりませぬ、お歸りなさい今夜の事は間違で濟せます」と其夜は町內から十兩の金を進上げました。偖番屋の方では、ロイッは可かん與兵衞が娑婆に居ると如何かすると彼の百兩を口走しる、喧はれたら此方が臭い、より俺の方から先手掛けは彼奴に違ひないと願ふて遣らうと 願書を認めまして、西のお奉行、松平大隅守様へ願ひましたから夫れ／＼へ差紙が參りました、當日掛りの人は西の御奉行所の溜りに待つて居ります お呼出しの聲「何町何丁目出ませ……」と、「……」其內に「南[illegible]屋町二丁目出ませう――」との聲で出掛けますと、今は御前白洲で、正面がまんじ形のお唐紙其時に、障子が四枚、其前が黒塗大對立、此障子を開いて、お出まし、嚴かしい公事聞は御城代が此障子の陰でお聞になつたものでございますさうな、御縁側の兩脇には惣代いまする、此人は小首で扶持を戴いて居る役柄、惣「貴様は何者ぢや、糸屋久七か、其へ座れ、貴様は武兵衞か、少々下がれ、和泉屋與兵衞、貴様は正面へ行け、コリヤ貴様は町役か袴が破れて居る、氣を付い、貴様は髷の先が上つて居る直せ、ヤイお白洲へ提物はならぬ、煙草入を直せ 町「お白洲へも盗人が出ますか」役「默れ」

▲無料紹介欄▼

人事部

古荷車安價にて讓り受けたし 永樂町三丁目三六二番今藤(一〇三)

●雇ひたし 石鹼製造に經驗あるもの急入用 氏名在社(一〇四)

●呉服商に多年經驗あるもの雇はれたし年十九 氏名在社(一〇五)

●官衙の給仕に雇はれたし年十八 氏名在社(一〇六)

●被傭度 豫備役海軍一等機關兵年廿六(機械の運轉取扱へ雇はれたし普通事務に適す給料多きを不望)氏名在社(一〇七)

鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ 同縣人(一〇八)

店員入用 新炭商に經驗ある者若干名雇入たし 壽町三丁目今福商店(一一一)

●雇れたし 年三十九中等教育有算筆健病院會社の受附又は商店の帳場員を望む 氏名在社(一一二)

●雇れたし 年廿六身体頑健職業を擇ばず相當の家に雇れたし 氏名在社(一一三)

店員入用 保證人ある十六才以上十八才までの人至急入用 氏名在社(一〇九)

●看護婦至急入用 明治町二丁目松岡醫院(一一八)

●女子見習生募集 委細面談 本町六丁目中村齒科醫院

●韓語速成敎授 本町六丁目六五韓語速成講習所

崎村君 より御親切なる御言葉厚く御禮申上候 石村生(一一五)

下女入用 望の者は本人來談あれ 氏名在社(一一六)

女中入用 裁縫の心得ある人を求む 旭町一丁目讀賣所(一二〇)

英韓語無料敎授自午後六時至九時永樂町三丁目二十一番戸ノ四 上田生(一二二)

物件部

賣地 本町八丁目通り地所貳百坪溫突八間の建家共至急賣却致度御希望の方は御來談を乞ふ姓名在社(九八)

賣地 本町八丁目通り地所四十坪溫突十間建家の儘格安にて至急賣却 姓名在社(九九)

賣地 京仁線富平停車場近所在上水田四十石落安價にて讓却す希望者は至急申込あれ 旭町二丁目京城興信所(一〇一)

便利の場所にして電話の備もあり官吏向き八疊四疊五疊の間二階貸間あり 電話六五九番に御照會あれ(一〇〇)

賄付貸間あり 名在社(一一七)

古着 其他御不用品買受けたし 旭町一丁目讀賣所(一一九)

貸間 旭町一丁目便利の場所にて六疊二間二階貸したし望の方は御來談被下度候 旭町一の六十 仁商會(一二一)

政治的福音

バツクル氏は文明史の劈頭に於て曰く米の文明は專制的にして小麥の文明は立憲的なりと、其言甚だ快活なるも[illegible]的の嫌ひなしとせず、米食民族も麥食民族も宇宙間より見れば共に大なる未來を有する以て一概に斷定するは早計なるを知らざる可らず[illegible]東洋西洋の歴史を按ずるにバツクル氏の所說全然否定すべからざるに似たり[illegible]

[illegible]此使命を果すもの帝國を措て夫れ將た何れにか求むる所ありや

●漢城便り

▲清皇室の變事と東洋 否世界の大變事たることは申迄も無之候、萬一列國勢力の均衡を破ることゝもならば我は如何に進退すべき、韓半島の事は斷じて決定し置くの必要無きか、敢て當路者に相望み申候。

▲一昨夜京城中に計らずも馬清國總領事と乘合せ候、偶清皇室の變事に及び申候馬領事曰く「先帝及西太后を失ひたるは我國家多事の今日に於て甚だ惜しむべきことなるも幸に幼帝を補翼すべき攝政として第一流の人物醇親王を迎へ得たるを以て北京朝廷の前途に就ては左程に憂ふるを要せざるべし」と、記者は實際斯有らんことを希望したり

▲若しも清國民が喪禮に因つて三年の喪に服するとせば我對清貿易の受くる打撃は決して尠からざるべしと被考候、何となれば喪中の清民は萬事に遠慮し品物の贈答も[illegible]が故に候。

▲東京、大阪取引所の株が五圓方の暴落をなしたるも[illegible]南滿諸港の恐慌に[illegible]最大原因が清皇室の變事なりしことは[illegible]ことゝ存候。

▲コールブランの給水事業は當初の見込通りに有利ならず、[illegible]の二氏も資本家も[illegible]に持餘し居り候と[illegible]羅馬に在ては羅馬[illegible]の古言を忘れたるの[illegible]

▲閉刊朝鮮タイムスの廢刊は記者の惜しむところに候、號を重ぬる三千なる朝鮮新報の廢刊に至つては人事の轉變を嘆せざるを得ず候、併し二粒の種子が地中に埋められて新なる一莖が地上に[illegible]は聊か惜情を減ずるに足り申候。

北京電報

●清國の改元

(十九日北京發)

今回宣統と改元し宣統元年と改むる旨詔勅ありたり

東京電報

●北京平穏

(十九日發)

伊集院公使よりの公電に依れば北京は四變の結果別に變動を見ず概して平穏の模樣なりと

▲兩陛下追弔式

北京帝室にては二十一日兩陛下の靈前に追弔式を行ひ各國公使一同參內拜す尚同日は在各外國公使館及び領事館にて遙拜式を舉行せり

▲鐵道官制と後藤男

鐵道廳官制は近々樞密院に於て諮詢の上確定すべく之と同時に後藤男爵は專任總裁となり山縣伊三郎氏後任となるべし

▲坂谷男と藏相

後藤男の專任總裁となると同時に坂谷男爵は大藏大臣の地位に就くべし(十九日發)

▲韓國貸付金成立

日本興業銀行債券韓國に貸付の爲め英佛兩國にて半額宛發行するに決したる旨發表せらる總額二千萬圓發行價格九十七圓償還期限二十五年据置十年にして英國にては本週佛國にては來週發表せらるべし

(以上十九日午後發)

雜報

●韓太子へ御贈品

本月十六日太皇帝は統監府に托して左記の物品を日本御遊學中の皇太子殿下に贈られたり

一[illegible] [illegible] 一[illegible] [illegible]
一海蔘 三帖 一胡桃 五斗
一銀杏 二斗 一綠豆 一斗
一柏子 一斗 一白麪米 [illegible]
一藥子 一櫃 一[illegible] 一封

●先王御眞影奉移

平壤なる豊慶宮に安置せる先生の御眞影を京城に奉移せしことは既報の如くなるが右は啻に平壤のみに止まらず今回國有財產に編入せられたる各地方の宮廟に安置せる諸王の御眞影は其の宮廟の土地及び建築物を處分又は利用する必要上何れも京城に奉移せらるゝものなりと云ふ

●韓皇の吊電

韓皇帝陛下には清國西太后陛下の崩御の趣を聞召され十七日統監府を經由して左の親電を清國皇帝陛下に發せられたり

薦聞貴太皇太后崩御切悲悼謹吊禮 韓國皇帝

●華頂宮大妃殿下薨去

に就て宮內府大臣は旨を奉し同宮家令田中壽三郎に宛て左の吊電を發せられたり

大妃殿下薨去の由聞召され深く哀悼の意を表せらる右言上を乞ふ

●清國總領事館遙拜式

清國總領事館にては明後二十一日午前兩陛下の遙拜式を行ひ領事館員一同及び居留民の主なる者參拜し午後二時よりは統監府員各大臣各國總領事の參拜を受くる由にて夫れ〲通知を發したりと云ふ

●統監一行

伊藤統監一行は十九日午後六時神戸發廿日午前下關着廿二日下關發仁川に向はる筈

●統監交迭運動乎

東京に於て專ら噂する所に依れば在韓の有志者なるものが伊藤統監の退任を促さんとし帝國議會開會中に於て大運動を開始すべき計畫なりしも近來統監の態度が平生と異る所ある模樣なれば暫らく事の成行を觀望したる上にせんと云ふ果して然る事實のありや否やこは民長官撰問題に就て帝國議會に提議して統監の不都合を質さんとする說の混交せるにあらずやと云ふものもあり暫らく聞くが儘を記し置く

●自由港閉鎖反對

露國政府は自由港閉鎖案の通過を急ぎたるも西比利亞選出議員の反對の爲め目的を達する能はず自由港は來年夏季中迄は存續するなるべし同案補足法の審査も委員に附託せられたりと云ふ

●鐵道發起人の猖獗

內部大臣は全羅南北道の觀察使及び郡守其他が湖南鐵道會社株式募集に關し職權を濫用して其の應募を強制するは不都合に就き此れに關係すべからざる旨を內訓したるため同會社發起人等は大に猖獗を極め內部大臣の內訓を以て同會社の設立を妨害するものなりとし囂々議論しつゝありといふ

●鑛業願の許可

平安南道平壤郡柴足面[illegible]鐵鑛 [illegible]坪 平壤府南門通り二丁目 脇坂喜之助
長崎縣北高來郡諫早町 酒井左右馬
咸鏡南道安邊郡下道社金鑛 一夫、六五坪 京城中部小貫子洞 趙觀允
同 西部珠洞 黃鎭國
同 中部廊洞 洪奭鉉
平安南道江界郡公西面 [illegible] 崔泳大
黃海道海州郡青山面鐵鑛 九四七、〇四四坪 京城南部竹洞 朴壽允
同 朴立陽
同 大山林洞 崔松燮
忠淸道青山郡南面鉛鑛 四六八、五五六坪 釜山港入江町 小宮萬次郎
同 西町二丁目 長谷川竹吉

●港灣漁基の整理

今回釜山稅關にては港灣內船路の關係上從來の漁基中往々妨げとなるものあるより今回一々漁基の權利者に願書を差出さしめ妨げとなるものは許可せず差し支へ無きもののみ許可する事とし此程より漁基の整理を開始せりと

●韓人辯護士試驗問題

既報の外第二日午後及び昨日(第三日)の韓人辯護士試驗問題は左の如し

刑事訴訟法(第三日午後)
第一問 犯罪の搜査を論ず
第二問 訟訴權の發生原因及び公訴提起の効力如何

商法(第三日午前)
第一問 商業とは何ぞや
第二問 手形條令施行後に發行せられたる於音の所持者は如何なる權利を有するか

●大倉氏の來城期

大倉喜八郎氏が善隣商業學校開校式に列席するため東京を出發し渡韓の途に就きたる事は東電既報の如くなるが氏は途中神戸沖なる大觀艦式を拜觀し京城着は明後二十一日の豫定なりと云ふ

●善隣商業學校の開校式

大倉喜八郎氏の寄附金によりて設立せられたる明治町なる善隣商業學校は今回大倉喜八郎氏來韓し開校式を舉行するため目下諸種の準備中なるが其の期日は大倉氏來着の上ならでは決定せざる由なるも本月末又は來月初に於て舉行すべしと云ふ

●門司商工團來韓

門司市商工團体員若干名韓國商工視察として廿二三日頃來韓さるべし

●探礦合辦照會

本溪湖炭礦に關し清國側にては既に資金四十萬元を得たるを以て礦山章程の新定を俟て日清合辦に着手すべき旨我領事館に通知し來れり

●各國居留地會

本日午前十時より仁川各國居留地會を開き居留地議員選擧權に關する件即ち一區一票及び代理投票を許すの案に就き討議する筈

●江華島の景況

江華島より此程仁川に寄港せる旅客の談に依れば同島昨今の形勢は尚ほ全く安穩なりと稱し得べきもの僅にトリミ、カツクジ、オリクジの三部落にして其他は何れも多少の危險は免れざるべし今邦人在留者の最も多き江華府に就て見れば東門外、南門外、北門外は概ね安全と見做し得れども西門外のみは危險の襲來を覺悟せざるべからず是れ暴徒の巢窟とも目す可き豊德郡より江華島の此方面に渡來するが其一大原因ならんも西門外の酒幕、雜貨商等意外に有福なるを見ても內通其他の方法に依り暴徒の餘德を被るにはあらずやと疑はる更に島內の警戒緩めば彼等は直に來り其嚴しければ速に去るを見ば思ひ半ばに過ぐるものあらん勿論憲兵及び巡査に於て是等間牒の檢擧に盡瘁すと雖も其行動頗る巧妙にて發見最も困難の由なり事態斯の如くなれば在住邦人は概ね生業を抛ち唯だ江華府內に雜貨店一、牛肉屋一の開店するものあるに過ぎず云々

●三滊船會社の割戻

仁川に於ける郵船商船尼ヶ崎の三滊船會社支店が昨年十一月同地輸出商との間に締結したる船賃割戻契約は去る十四日にて滿期となり三社支店にては速急其の精算をなし居るが此程三社共略其の決算を終り近々中輸出商に配分せらるゝ筈なるが前一ヶ年間三會社にて取扱ひたる運賃合計は約十萬圓にして其の內商船は五萬圓、郵船二萬圓、尼ヶ崎三万圓の比例なりと而して荷主に割戻せらるべき分は約八千圓なりと云ふ

●露國漁業家の活動

浦汐通信に依れば沿海州漁業家は近來一致共同の態度を執り既に本月二十四日を期して同地に聯合會を開き將來沿海州漁業の發達並に營業の方法に關する諸問題を討議する筈なり又ニコライスクの漁業家は露人をして今後漸次極東水產の利益を占有せしめ以て日本同業者に當るの準備として漁業共同會社を設け之を株式組織と爲し資本金二百萬留を募集すと云ふ

●穀物協會の穀物檢査

一昨日仁川商業會議所にて接受せる仁川穀物協會總會決議中樞要なる事項を拔萃すれば左の如し

第一項 仁川穀物協會は仁川商業會議所の囑託を受け穀物の檢査を取扱ふものとす

第二項 檢査は仁川に輸着する穀物全般に附き之をなす但し當分の內玄白米及び大豆に限り實施するものとす

第三項 檢査料は合格不合格を不論左の割に依り徵收す

玄米一石 二錢 白米同 二錢
大豆一石 一錢

第七項 檢査に關する紛議は役員會に於て解決す若し解決し能はざるものは商業會議所に報告して其處分を乞ふものとす

第十項 不合格品改良器具設備の件は會員相談會に於て決議したるものに依る

第十一項 穀物斗量の際は必ずトクシヤ(穀物)を使用すべきものとす

●日淸合資會社設立

滿州に於て有力なる日淸合名會社の設立せらるべしとは曾て耳にせし所なるが今回右計畫愈々熟し濟和公司なる名目にて奉天大西門外に創設せらるゝに至れり公司の組織は日淸人折半の合資となし日本側資本家は東京某資產家にして淸國側資本主は江蘇省有名の某富豪某外一二名なり事業は重に滿鐵の請負物資の供給及び支那官衙需要品の買込等にして原口聞一氏は右倉氏と共に同公司董事に選任せられたりと

●仁龍間の終航

仁川より漢江を溯りて龍山に達する漢江航路は毎年本月中旬を以て終航とする由なるが本年も例に由り愛爾三日中同航路航行を總るべしと云ふ

●渡船場取締準則

各地方の渡船場に就ては何等取締規定の制定せられたるものなかりしが內部大臣は今回渡船場取締準則なるものを定め此の規程に準據して其の許可監督をなさしむる事とし各觀察使に頒布すべしと

●暴徒討伐

江原道鐵原分遣隊長少尉以下八名は十一月十三日朔寧南方約二里にて約四十の賊を討ち三を殪し一を捕へ銃器十刀二を鹵獲す

●酒田丸の積荷

仁川天津間航路の連絡船たる日本郵船會社北淸命令航路船酒田丸は昨日午前仁川に入港し同午後二時大連に向ひ同港を出帆したるが同船の積荷を聞くに大連行精米は近來非常に少なく本船の如きも百六十叺を輸出するのみなるが天津行として最早來春まで交通杜絶するを以て本航にて千二百七十五叺の精米を仁川より輸出したりと

●富田民長の踏查 仁川民長富田耕司氏は一昨日午後三時より淸商同順泰氏と同伴共同墓地道路變更に就て敷地境界確定の實地踏查を遂げたり

●淸國總領事の歸任 東京に出張中なる馬淸國總領事は一昨夜南大門着列車にて歸任せり

●朝鮮日々交迭 多田次平氏專務理事を辭して退社し野々村次郎氏後任者となれり

●矯風禁酒演說 本日午後七時より旭町名古屋城內に開催せらる辯士は飯島文學士外二名なりと

●齋藤警部の出發 齋藤內部警務局長は慶尚南道及び忠淸南道の視察を命ぜられ寺島警部を隨へ明二十日出發す

●辭令 (十九日附)

統監府技手 菊地讓行
理事廳屬 石井信造
韓國政府の聘傭を解かれ[illegible]

公人私人

▲柴田虎太郎(鎭南浦殖工銀行支配人) 十八日歸任

▲隈軍吉(黃海道警察署長) 十八日入城旅館

▲若松兎三郎(元山理事官) 十八日入城巴城館

●近事片々

▲北京電報に伊集院公使の報告として北京は其後平穏也と果して然らば賀すべき哉

▲慶親王兵力を擁して威權赫々攝政醇親王は切に慶親王に掣肘を依頼せりの說あり

▲然らば實際の勢力は慶親王にあるか將た之れ表面丈けの事實なるか未だ判明せず

▲慶親王攻して淸廷に雄視せば袁世凱如何 得意の筈なるも袁の消息杳として聞へず

▲醇親王攝政となりて張之洞、那桐の勢力刷堂に墓らんか袁張二氏失職和協し居る乎

▲滿族の不平を鎭むるには張氏の力を藉らざる可らず滿族を抑へるには慶親王の[illegible]

▲新進氣銳の徒が廟堂に勢力を得るや否とは大に袁世凱の勢力盛衰による事ならん

▲若し夫れ端郡王載漪端方等の勢力盛なるに至らば淸國憲政の前途に支障あらんか

▲守舊派の頭目肅親王の態度や如何載澤も猶厭にして若き恭親王の態度は抑も如何乎

▲醇親王も文明的の智識ありと雖も較もすれば守舊に傾き易しとの說あり如何にや

▲併し今回攝政たるに至て國民の興望頗る良なりとすれば恭謙なる態度を取られし乎

▲親王は嘗きに帝國にも來朝せられし事あれば帝國との關係にも餘り不良にあらじ

▲故西太后は何と云ふても世界の女傑たるに相違なし纖手能く四百餘州を統一せり

▲世人は露國のカタリン女王に較ぶるも西太后は遙に其上に居らん是れ公平の許也

▲英國故ヴクトリヤ女皇に比すれば稍其操守と德望を欠けるも之れ后の經歷のみ

▲韓國の故閔妃に比して彼是評する人あるも其大小到底同一に論ずべき者にあらず

▲閔妃には族閥觀念強く眞に國家たるの觀念稍々薄きが如き觀ありき之れ相違の點

▲西太后は啻に四百餘州を統一したるのみに非ず能く列國に對して重きをなせしき

▲素行及迷信云々の如きは今之を論ずべきに非ず之等は史家の傳ふるに任じて可なり

▲西太后は啻に氣力旺盛なるのみならず頭腦明晳にして能く文明式政治を解せる也

▲進取の觀念は青年も及ばざる所有るに、歐米人を聘して陸海軍を起したるに非ずや

▲老政治家は多く保守に傾き易きも西太后の烱眼は能く立憲政治の可なるを看破す

▲是れ滿族を慰撫統御するの一策には相違なきも其利害を能く看破するの慧眼あり

後の奇縁(一)

ひで子

「電報、電報、阪田さん電報、」

雪は盛んに夜も既に、二時にも近き寢入鼻、「ハイ」と返事の細めいて、開ける格子にヌット入ッたは、配達ならで、主人の保、

「まあ、貴郎……」と呆れる妻に關はずに、少々艶い一類の六疊、長火鉢の前へ、胡坐をかいて、掛金懸けて戻ッた妻と、火鉢を對して、アハヽヽと大笑、

「怒だ、孔明洗足だらう、實は前例もある今夜も開けて呉れ、イヤいけねえ[illegible]押問答も近所の手前、餘り褒めた節でないから、一寸電報の聲色さ、アハヽヽ時に、一本つけて呉れ、ね、肴、何も要らぬ、あ菊地の置いて行ッた海苔、彼れで御の字」

用簞笥の上の置時計は、二時を打ッた

「實は斯樣さ、菊地と停車場で別れてから彼の透明館の宿六、菊地の下宿して居た家よ、其の亭主と二人で、亦二次會を作つちやッた、夫れが爲めの電報の聲色さ、オイ燗がぬるいぜ」

神妙にして妻の酌子は、海苔を切ッてる

「料理屋を出る時分は、雪は飛んで鷺毛に似たり、人は勸袋を着て徘徊す、などヽ氣勢が威勢も善かッたが、亭主と別れて、アノ横町の角迄來ると、何だか急に醒め出した何、酔ッて居れば、電報の聲色は遣はない

「御主人様の御歸りだ、正門開けろ……」

「貴郎そんな、大きな聲して、聞りますよ、御近所で騒々しいと仰しやりますよ」

「アライヤツ、と[illegible]を付けて、歸るんだから……」

「ね、姉さんが付つて……」

「此姉、[illegible]の五歳の時に、生別れの姉が有つたと、聞つてたが、……何つたぞ」

「ひい、今夜菊地の話に依て、雑に付つた其姉さんは、局長官舎に居る」

●韓人の生埋

……卽死者二名……

仁川龍岡町居住土木請負業川孫清三郎の配下に屬する韓人夫百名許りが一昨日午後一時半頃仁川府内角洞先きなる鐵道線路工事を爲し居りし際俄然崩壊なる小丘の大部崩壊したるより數十名の人夫はスワこそ大變と銘々[illegible]ツ脚を打捨て命から〳〵逃げ出せしが中に仁川興式洞居住金興(三)及同洞朴永會(三)の兩人は[illegible]も逃げ遅れたる爲め土砂の中に埋められ終に即死を遂げたり又牛角洞居住林張元(三)も同じく土砂の中に埋められ[illegible]止めたりといふ依つて此の報に接したる仁川警察署にては直ちに警官醫者を派し負傷者には相當の手當を施し死体は夫れ〳〵家人に引き渡したり

●乱暴な銃猟者

……支那婦人を射る……

仁川敷島遊廓より十五六丁先きなる仁川街道に淸國人孫鳳祥なるもの住めるが此の家の雇人某が一昨日午後一時半頃自家飼養の豚に食を與へんとて庭內の豚小屋に至るや折柄三名の邦人入り來り小屋の側なる樹木にとまれる雀を射んとて其中の一人が獵銃を肩より卸ろさんとするや此家の妻それと見て危險よあぶないよと制止したるも彼等は肯かず火蓋を切りしが其の際甚應した機みか銃丸飛んで豚殘にも前記妻の腰部を射たるより三名の者は打ち驚き儘は大變と一目さんに郭外に逃げ出し遂に行衛不明となりたるが前記妻の傷は至つて輕く岡町小倉病[illegible]

●此も誰故那の人故

……花蝶の窮策……

新町松榮樓の花蝶となん呼ぶ二枚鑑者は生國は出雲入船賑やかに其の名も高き神戸港は港町なるが此の女小兒の時より浮氣にて此れ迄大分兩親にも心配を掛け手の付けられぬ阿婆擢れ女なるが結局色で浮世を渡らばやと其の揚句女郎志願とあつて今の廓に身を沈めたのが去年の四月ツレよりといふものは變る枕の數々も少しも身には愛しと思はず却つて面白く可笑しく勤め居りしがさるにても此の女不思議な事には性質の跳ッ返へりにも似ず雨の晨雪の夕時々二階の欄干に身を倚れて東の空を打ち眺めては深き思案に沈み果てはホロリと落す一雫に襦袢の袖を濡らすこともあるより何れは冒ふに言はれぬ仔細のあらんもダン〳〵樣子を探り見しにソレも其の筈花蝶には嘗て國元に居る時分から契りし男ありて名は中川某といひ今年二十六の勇み肌とて變はせし男なりしが花蝶は此の地に來りて郭に身を沈めても男の事は片時も忘れず思ひ出されタトと浮ひた勤めの憂き苦勞の中にも笑顔を装ひて心は何時も男の側を離れず明け暮れいと懷しく思ひ居りしが何とかして男に苦勞がして見たいと思ひ詰め手紙を送り男に來れと言ひやりしに男も元々憎からぬ女の事とて取るものも取り敢へず早速來りしは本年二月頃と覺ね[illegible]

●身から出た錆

……銀筋職の困却……

本名丈は身分相應し通らんも通信管理局に毎日辨當を下げて通勤し居る北森(假の名)[illegible]通り大枚四十五圓といふ收入に有り付きいとも神妙に精勤し居りたるがサテ斯うなると之れ又小人の習ひとして氣が緩み洋服も之れでは時代遅れだ帽子も古いといふ工合にダン〳〵洒落氣が萌じる丈なら又しても然には交際の爲めだとか何だとかを口實にし諸所の料理屋すき焼屋などに押し上り女を相手に酒の醉を覺ね果ては木佛金佛ぢやあるまいし轉ばれるものかと時には女をば下宿に引き入れ枕の塵を拂はせることも屢々なりしが中に北森は永樂町のある料理屋の仲居にて宮地タキ(二三)といふ女に熱くなり末は定りの夫婦として永樂町二丁目に開業し共に面白く可笑しく暮し居りしが其の女といふが仲々の阿婆擢れ者にて內心には男を嫌ひ二三日前男の衣類と現金三十圓とを攫ッ攫ひ何れへかトロンを極めたので男は口惜ッて堪らず近頃は碌々役所にも出勤せずとは醜にれ氣の毒さす

●五雲會開會

五雲會にては來る十二月六日(日曜日)午後一時より大和町梅の家に於て第二十五回開會を爲す由當日の番組左の如し

田淵氏　竹田氏
繪馬ツ　上村氏
中村三氏
巴　庄住氏　澁谷氏
鬪　法師氏　長氏
有賀氏
彈　丸七　西尾氏　岡本氏　ツ見島氏
有田氏　中村庄氏　本田氏
羽衣　立三浦氏

●文なしの駈落

仁川宮町三丁目居住入波方人力車夫草場清太と云ふは過日延安地方に測量人夫として出稼中同地飲食店屋女れしづと云ふに關係を付けたるが二人は這麼田舍で暮らうより一層仁川に駈落せんと相談一決し去る九日韓船を雇ひて駈落と洒落込み仁川迄三圓五十錢の約束にて出發したる迄はよかりしがサテ仁川に着いた時には所持金不足にて船賃さへも仕拂ふことの出來ぬ始末漸やくにして一人分一圓七十錢を支拂ひ餘は龍山にて支拂ふべしとて龍山に赴きたるも儘今日に至るまで姿も影も見せざりしかば韓船夫は堪り兼ね其筋に屆出でたるより保官注意中なりしに一昨日歸仁したるより直ちに引摘ね不足分を支拂はされたり

●家主の不都合

中部曲洞李召吏(二十)といふは昨年西部盤松坊李修用より家を借り其の際敷金として百圓を預け置きしが李は本年六月頃他に移轉するにつき家主李より敷金の全部を返へし與るゝやう請求せしに李は只今といつては都合惡しければ其の內返却すべしと五十圓丈を戻し遣りしが今に至るも殘金五十圓を返へし呉れぬにぞ李は大に立腹し其の旨西部警察署に訴へ出でたり

●氣早な若者

西部盤松坊金元白(一八)といふは一昨日正午頃南大門驛裏精米所の前路に荷車を横へ居りしが折柄畜產會社の中島政市(二二)といふが通り掛り金に向つて邪魔になるから除けろと言ひしに金は除けぬと強張り結局定まりの喧嘩となりしが政市は氣早くも路傍の石をオッ取りて金の頭部を強かに撲つたので金は負傷し警察署へ訴へ出でたるにぞ政市は治療代を徵發されて引下りたり

◆新年號附録▼

追々と新年も近寄つて參りました、例に依つて各新聞雜誌社が新年附録を調製する爲め之が趣向と意匠とにつき今より苦心を重ねて居りますのは毎年何所も同じことであります却說本紙は此の來るべき新年に際して何のやうな附録を調製して愛讀者諸君の眼を喜ばしめやうかと種々樣々と考案を廻らした末、双子六を添付しやうといふことに決定しました、申すまでもなく、双子六は新年に於ける家庭の娛樂法としては最も趣味に富んで居る面白い遊戯であります、而も之が意匠と趣向とは從來有り振れたる陳腐のものではなく極めて嶄新にして奇拔なものであります、ツヤ之が內容を一言に申しますと京城の各商店、銀行、會社、旅館、料理店(個人も含む)等を順々に並べ本社を振り出しとして振り始むのであります、思ふに之れ唯に趣味ある娛樂法たるのみならず一面には京城の案內記とも見るべきものであります若し夫れ如上の各商店銀行、會社、旅館等に於て一輙之れが双子六中の者となつたならば其の廣告の効能は偉大なるものだらうと思ひます廣告の締切は十二月五日限です

▲新年號附錄▼

●本社への禮狀

旭町三丁目三十九番地音譜琴曲教授所主任柴田靜代子の敎授に係はる音譜琴曲は敎授上一新機軸を開きし爲め從來の敎授法に比し速成にして且つ習ひ易きは曾て本紙三面欄に於て記載せし如くなるが右に關し昨日支那領事館前の篠原みね子外二名の婦人より左の意味の感謝狀舞ひ込みたり

妾は最初此の敎授をば半ば信じ半ば疑ひつゝ入門しましたがソレは妾しの考へ違ひでヤット一月位で普通二年も稽古をしたのと同樣に上達しました之れ一は師匠其の人の熱心と一は貴紙の御紹介とに依るのです爰に御禮旁々普く同好の方々に御知らせ申します云々

●元客引の無錢乘船

仁川仲町尾崎旅館方に雇はれて客引に雇はれ居たる山口縣生れの山口竹八(二二)と云ふは去三月廿八日同地を出發し群山に赴きたるが同地にても思はしき儲け口なきより一昨日同地出帆の群山丸に無錢にて乘船し仁川に來りたるが上陸の際發覺せられて警察に突き出さる

●飲食代九十三圓

中署毛橋五統二戸申泰俊は向ひ側なる淸國人の料理店于巨川より此れ迄飲食したる代金が積り積つて九十三圓となりしも申は一向平氣にて錢一文の支拂さへ爲さゞるより淸國人は非常に立腹し其の旨南部警察署へ訴へ出でしが結局申より內金として十五圓丈を入れ後は追つて支拂ふと相談まとまり事濟みとなりたり

●落花狼藉

一昨日午後六時頃南部大坪坊洞李丙戌(二三)同尹秉寧(一九)及同李丙啓(一八)の三人が前記尹方に於て賭場に花を咲かして居る處を銅峴分署の巡査に踏み込まれ三名共本署に引致されたり

●警察の前で立小便

福岡縣生れ南山町二丁目五番地櫻崎淸吉(三十)は一昨日午後八時三十分本町理事廳前で巡査の制止するのも肯かず放尿をしたので本署に引致さる

●芦澤洋家具店の繁榮

洋家具商として比較的僅少なる京城に於て同店の如き確固なる地盤と多大なる信用とを博せる家具商を見るに至りしは一般僅人の喜ぶ所なり本店は長崎當地に支店を設けしは本年九月下旬なり職工は何れも內地に於て熟達老練の粒選り如何なる美術的の品物にても注文に應せざるはなし而して其の製品は言ふ迄もなく堅牢にして巧緻而も優に舶來品を凌ぎ價も亦特別に低廉なり常に職工を監督する練達の技師ありて專ら彫刻及体裁意匠等に意を用ひ時勢に推移して品物に趣向を回らすが如き確に文明流の商風といふべし次に室內裝飾品は重もに英國より輸入し他は一切同店の製造に係り居れり得意先は概して日韓の諸官衙及び銀行會社場所は長谷川町二丁目なり

●天氣豫報(自十八日午後六時 至十九日午後六時)

南の風　曇

十八日午前六時各地氣象概況　各地共氣壓下降を示し南東風流行し晴曇相半せり

廣告

落語

猫久（五）

禽語樓小さん口演

熊「然りやア何處までも參りますが何んぞ小言に御用で

士「れ呼立て申して突然斯様なことをれ前さんにいふたら驚かれることであらうがれ前さんには未だ拙者は一面會も致したことはござらんナ

熊「へエ〳〵

士「實は當家の前を通掛つて一寸此顔を剃つて貰はうかと存じてナ

熊「へエ

士「是れへ這入つたが御覧の如く四五人を待たなければならぬ再び參らうとも存じたが是れに…所が二三枚の新聞紙も讀盡して暫く睡眠を催ふして居つた

熊「然りやア何うも大きに御苦勞様でございました

士「うと〳〵して居つたる所突然れ前が今此處に這入つてれ出で〻當家の主人とれ話を爲さるのを餘所ながら此所に於て承つれ聞く所に依れば何うも容易ならん怪妙の御話ぢや〳〵

熊「へエ左様でげすかなア

士「猫又の化物が暴れるといふ様な話だが何うも斯く 聖上のた膝下の都會にありながらして怪しき猫の化物見たやうなものが現はれ出づるやうなことなどは固よりあらう道理はござらん 怪力亂神を語らずで左様なことはなからうが萬が一あつたに致して押し何うも人民に害をするやうな化物が出て參つて夫程の騒ぎを何うも警察で捨置くといふのも可笑しな譯で何づれ猫退治といふやうなことが行はるゝであらう……

熊「へエ〳〵

士「併し人民の義務として人が既に殺され掛かしられるといふ是れを何うも傍觀するといふのは甚だ不人情千萬の譯ぢや

熊「へエ

士「斯く申さば拙者が事を好むに似て笑はるゝか知らんが怪我人の少ない中に助けてやらうと存ずるぢや

熊「へエ

士「御覧の如く痩士族ぢやが拙者も兩三年前までは聊かの公債も持參して居つたが一人の悴が放蕩の爲めに是れも遂う〳〵スツテンテンの濃重衆と飛んで仕舞ふた

熊「へエ〳〵

士「が壯年の折柄武藝十八範に於ては誇る譯はござらんが今に於て更に撓まぬ心得で居るテ

熊「へエ

士「同じ人民で居りながら傍觀する譯にもいかぬに依つて外に人なくんば拙者が猫又なるものを直ちに退治て進せやう何んぞ人騒じに劍戟を持出すには及ばぬ扇面一本あれば其猫又なるものを直に退治て御覧に入れ日を待たずして諸新聞紙に功を現すやうにして御目に掛りやう是れも人民の務職でござるに依つて直に現場に御案内を願ふ

●新聞料 ▲一ヶ月金三十錢 ▲三ヶ月金八十錢 ▲六ヶ月金壹圓六十錢 ▲一ヶ年金三圓

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲…

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久馬太郎

發行所 京城新聞社 京城西署西小門 電話六六三番